



環境経営レポート2022

報告期間：2022年 6月 1日 ~ 2023年 5月 31日

VAIO株式会社

発行日：2023年 8月 31日



目次

1. はじめに	3
2. 会社概要	4
3. 環境経営理念・方針、環境経営組織	5
4. SDGs への貢献	6
5. カーボンニュートラルを目指して	7
6. サイト環境活動	10
7. 製品環境活動	14
8. 生物多様性保全活動	20
9. 環境コミュニケーション	21
10. 環境教育・緊急時対応訓練	22
11. 社会貢献活動	23
12. 使用済み製品のリサイクル	24
13. 環境関連法規制の遵守評価	25
14. 環境マネジメントレビュー	26

1. はじめに

VAIOの誕生は今から四半世紀ほど前、1997年にさかのぼります。ソニー株式会社のパーソナルコンピュータ・ブランドとして登場したVAIO。その製品は、軽量・薄型のモバイル・ノートパソコンを中心としたリーディングブランドとして、世代を超えて世界中の人々に愛されてきました。2014年にソニーから独立してVAIO株式会社となってからも、私どもはその伝統を受け継ぎながら、カッコイイ（Inspiring）・カシコイ（Ingenious）・ホンモノ（Genuine）の商品理念のもと、北アルプスの麓、水と緑豊かな長野県安曇野の本社工場を拠点に製品を産み出し続けています。

VAIOが醸し出すモチーフは、「自由」そして「挑戦」です。私たちは常に製品を使っていただく方を想い、その方たちに最高のコンピューティング体験をしていただけるようなものづくりにこだわり続けてまいりました。VAIO独特のスタイリッシュなデザイン、そして製品の快適な操作性や信頼感、そこから導き出される所有と使用の満足感・・・それらをもとに、お客様の皆さまが「自由」な発想でさまざまなことに「挑戦」することができれば、大変嬉しく思います。

IT業界はどんどん進化を続けています。私どももパソコンを中心に、リモートワーク推進や環境負荷低減にも貢献するさまざまなイノベーションに挑戦して、皆さまとともに豊かで持続可能な社会を創れるように努めてまいりたいと存じます。

VAIOは2014年の設立以来、一貫して環境経営を推進し、環境省が策定した日本独自の環境マネジメントシステム「エコアクション21」の認証を取得しています。気候変動や資源枯渇といった様々な地球環境問題が顕在化する中、環境への取り組みを企業の責任と認識し、事業活動やモノ作りにおいて環境負荷低減を図り、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

今後とも一層のご支援とご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。



VAIO株式会社
代表取締役
執行役員社長

山野 正樹



2. 会社概要

会社名	VAIO株式会社		
設立日	2014年7月1日		
代表取締役社長	山野 正樹		
本社・本社工場	〒399-8282	長野県安曇野市豊科5432	TEL : 0263-87-0810 (代表)
東京オフィス	〒105-0001	東京都港区虎ノ門4-3-20 神谷町MTビル16階	TEL : 03-6420-0960 (代表)
大阪オフィス	〒541-0046	大阪府大阪市中央区平野町2-4-9 淀屋橋PREX12階	
名古屋オフィス	〒460-0008	愛知県名古屋市中区栄3-2-3 名古屋日興証券ビル4階	
福岡オフィス	〒812-0013	福岡県福岡市博多区博多駅東1-18-33 博多イーストテラス1階 Mol.t	
URL	https://vaio.com/		
事業内容	PC事業：企画、設計、開発、製造および販売と、それに付随するサービス		
事業年度	6月～5月		
資本金	1,552百万円		
	本社・本社工場	東京オフィス他	
従業員数	425人	132人	(派遣社員等含む)
延床面積	30,486m ²	641m ²	
環境責任者	山野 正樹		
環境管理責任者	(正) 大村 修一、(副) 奥原 剛		
環境事務局	(製品環境) 内田 昌樹、黒岩 浩司、青柳 美穂		(サイト環境) 泉 泰志、青柳 秀典

2023年5月1日時点



3. 環境経営理念・方針、環境経営組織

【環境経営理念】

水と緑豊かな安曇野に立地するVAIOとして、身近な環境に限らず、国際的な環境活動と調和した事業活動を行い、持続可能な社会の実現に貢献します。

【環境経営方針】

1. 環境に配慮した製品・サービスを提供し、お客様の環境負荷低減及びSDGsの達成に貢献します。
2. 働きやすい環境の整備、エネルギー使用の合理化を行い、2030年度にCO₂排出量を2018年度比で50%削減します。
3. 資源の有効利用、リサイクル化を推進し、循環型社会の実現を目指します。
4. 化学物質の適正管理を行い、人と環境への悪影響を削減します。
5. 水使用量を適切に管理します。
6. グリーン購入・調達を継続実施します。
7. 環境関連法規制等を遵守します。
8. 環境経営の継続的改善を実施します。

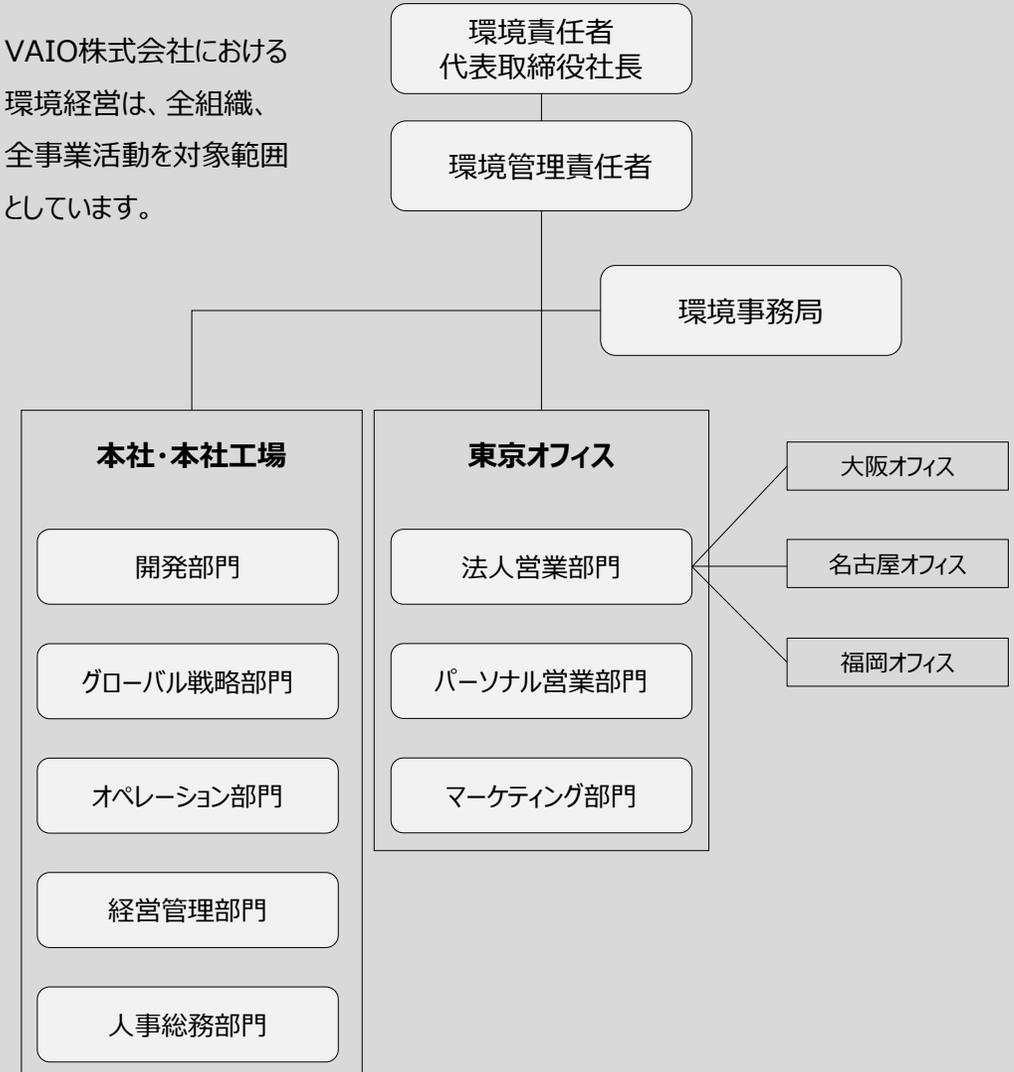
環境経営方針は全社員に周知し、全員参加で自主的・積極的に取り組みます。
また、環境経営方針は社外にも公表します。

制定日：2015年1月28日
改定日：2022年5月30日

VAIO株式会社
代表取締役社長 山野 正樹

【環境経営組織】

VAIO株式会社における環境経営は、全組織、全事業活動を対象範囲としています。



4. SDGs への貢献

2022年度は、13ゴールに貢献しています。

✓：貢献中



	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 成長・雇用	9 イノベーション	10 不平等	11 都市	12 生産・消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実施手段	
製品環境	消費電力削減						✓		✓			✓	✓					
	バージンプラスチック使用削減								✓			✓		✓				
	製品含有化学物質管理			✓		✓									✓			
サイト環境	CO ₂ 廃出量削減						✓					✓	✓		✓			
	廃棄物排出量削減、リサイクル率向上						✓					✓	✓		✓			
	水道使用量削減					✓						✓						
	グリーン購入率向上											✓			✓			
部署の活動	働き方改革（早残・ノー残、超過勤務減、男性育児休暇定着）、ソコワク		✓		✓		✓	✓					✓					
	設備更新・LED化推進による電力削減						✓	✓			✓	✓	✓					
	部品・材料の余剰リスク回避						✓					✓	✓		✓			
	品質改善・環境配慮製品の販売促進						✓	✓				✓	✓		✓			✓
	製造工程における省電力化						✓		✓			✓	✓					
	外部とのコミュニケーション、社会貢献活動				✓						✓	✓			✓			
	絶滅危惧種のチョウ「オオルリジミ」保護活動															✓		

5. カーボンニュートラルを目指して

産業革命以降の平均気温の上昇を1.5℃未満に抑える「1.5℃目標」達成に向け、世界は大きく動き始めています。

VAIO株式会社は、この「1.5℃目標」達成に向け、2030年度を目標年度とする温室効果ガス削減目標を2018年度比で50%削減することを環境経営方針に掲げ、2022年7月に国際的な気候変動イニシアチブである SBTi により「中小企業版 SBT」に認定されました。

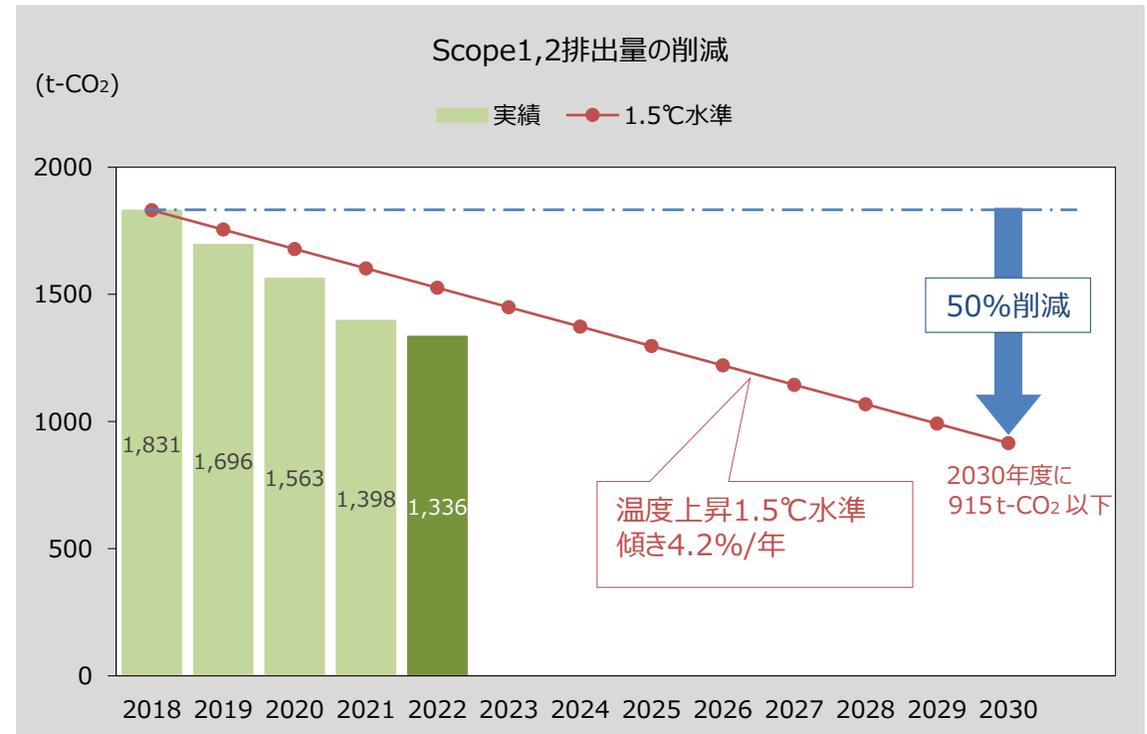
2022年度もCO₂排出量削減に取り組み、Scope1,2排出量の年度目標を達成することができました。

2030年度の目標達成に向け、取り組みを継続いたします。



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION



※ Science Based Targetsは、国際的な枠組みである「パリ協定」が求める水準と整合した温室効果ガス削減目標のこと。

再生可能エネルギーの導入

- 2023年1月より、東京オフィスで使用する全電力を再生可能エネルギー化

- 2023年7月より、安曇野本社・工場で使用する全電力を再生可能エネルギー化
安曇野の水力発電所等で発電されたCO₂フリー電力を7月から活用

2023年7月より長野県安曇野市の本社および本社工場で使用する全ての電力を、実質的に100%再生可能エネルギー化いたします。

この取り組みは中部電力ミライズ株式会社を通じて行うものであり、CO₂フリー電気の一部は安曇野の水力発電所で発電された電気を活用することで、電気の地産地消ならびに持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

国内で販売するすべてのVAIO PCは本社工場で専任の技術者が一台ずつ仕上げを行い、約50項目にもおよぶ品質チェックを実施する「安曇野FINISH」でお届けしていますが、その過程で使用する電力も実質的に100%再生可能エネルギーとなります。



Scope3排出量の算定

VAIO株式会社では、カーボンニュートラルを目指し、これまで自社の温室効果ガス排出量（Scope1,2）の把握・削減を進めてきました。

しかし、カーボンニュートラルを達成するためには、自社の温室効果ガス排出量（Scope1,2）だけでなく、事業活動に関係する他社の温室効果ガス排出量（Scope3）も含めたサプライチェーン全体での排出量の把握・削減が必要となります。

このため、VAIO株式会社では、Scope3排出量の把握を開始しました。下表は、2021年度のScope3排出量の算定結果です。

項目	2021年度 Scope3排出量	
	排出量 (t-CO ₂)	説明
Scope3 Cat.1 (購入した製品・サービス)	23,003.5	販売した製品や試作に必要な原料、部品、梱包材等の製造に伴う排出量
Cat.2(資本財)	629.0	投資した施設・設備等の製造に伴う排出量
Cat.4 (輸送、配送：上流)	841.9	製品製造に使う部品の輸送、保管倉庫への移動等に伴う排出量
Cat.5 (事業所から出る排出物)	57.7	発生した廃棄物処理に伴う排出量
Cat.6 (出張)	55.2	社員の出張に伴う移動やホテル滞在に伴う排出量
Cat.7 (通勤)	47.4	社員の通勤時の排出量
Cat.9 (輸送、配送：下流)	652.7	製品を出荷する際の輸送に伴う排出量や、修理に伴う製品輸送に伴う排出量
Cat.11 (販売した製品の使用)	5,847.2	製造・販売した製品・サービス等が想定される生涯の消費電力から推測した排出量
Cat.12 (販売した製品の廃棄)	0.4	販売した製品の廃棄・リサイクルに伴う排出量

- マーケット基準で算出しています。
- 排出量t-CO₂は小数点二桁目以降は切り捨てています。
- Scope3 Cat.3,8,10,13,14,15は対象が無いため記載を省いています。

6. サイト環境活動

目標設定

CO₂排出量は、今年度から原単位でなく、絶対値での管理に変更しました。2018年度の実績値を起点として、2030年度までに半減させることを目標とした上で、年度の目標を設定しています。

廃棄物排出量は、事業規模による変動があるため、売り上げに対する排出量の比率（排出量/売上）で算出し、さらに2016年度の実績を『100』として換算した原単位を用いています。2016年度を基準年度とし、2017年度以降は年2ポイントずつ削減することを目標としています。

2022年度の結果

取組項目	単位	2022年度		
		目標	実績	評価
CO ₂ 排出量（Scope1,2）の削減	t-CO ₂	1,344.15 以下	1,335.63	○
廃棄物排出量の削減	原単位	88 以下	67	○
リサイクル率の向上	%	90.0 以上	92.4	○
水道使用量の削減	m ³	15,276 以下	12,250	○
グリーン購入率の向上	%	90.0 以上	91.2	○

※原単位について：売り上げに対する排出量の比率（排出量/売上）で算出し、さらに、2016年度の実績を『100』として換算したものです。

※電力の二酸化炭素排出係数：本社・本社工場：0.000426 t-CO₂/kWh（中部電力ミライズ2019年度実績・調整後排出係数），東京オフィス：0.000442 t-CO₂/kWh（東京電力エナジーパートナー2019年度実績・調整後排出係数）

CO₂ 排出量 (Scope1,2) の削減

全社 (本社・本社工場 + 東京オフィス他)

全社における「CO₂ 排出量の削減」は、2022年度目標を達成しました。

取り組みとしては、

- 温度管理の徹底 (冬20℃、夏28℃の集中管理) : 本社・本社工場、東京オフィス
- 内外温度を確認し外気の取り込みにより温度調整 : 本社・本社工場
- 可能な範囲でのテレワークの継続 : 全社
- 段階的な照明のLED化 : 本社・本社工場
- 電力の再エネ化 : 東京オフィス2023年1月～、本社・本社工場2023年7月～

を実施しました。



リサイクル率の向上

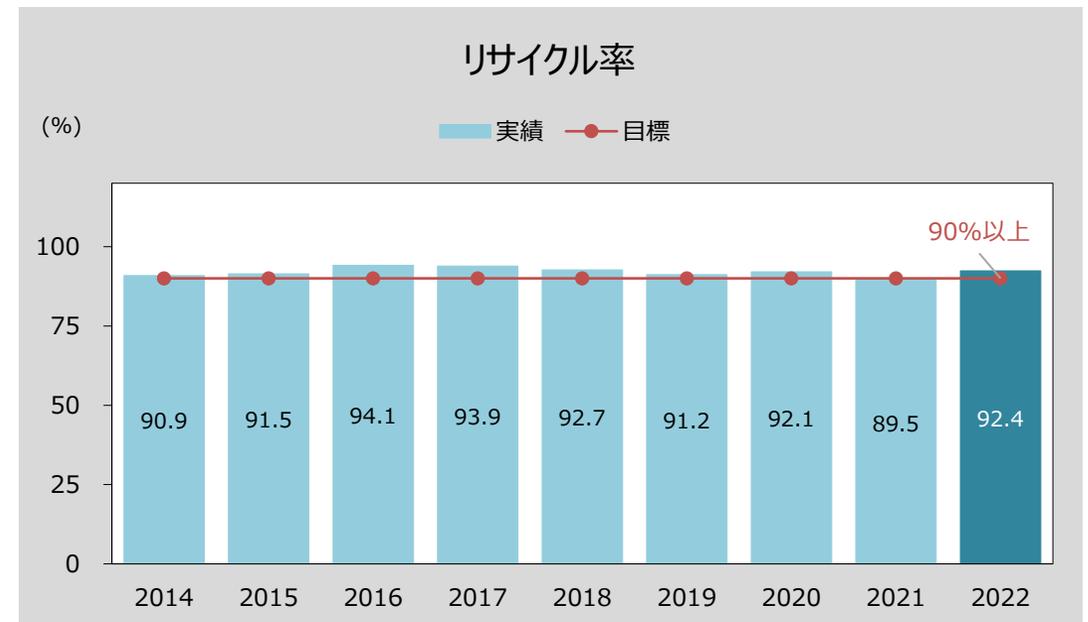
全社 (本社・本社工場 + 東京オフィス他)

全社における「リサイクル率の向上」は、2022年度目標を達成しました。

取り組みとしては、

- 各職場に「リサイクルステーション」を設置
- 分別徹底の推進 (リサイクルステーションの監視強化)
- 一般可燃物削減に向けた分別強化
- 月次での進捗状況管理の徹底

を実施しました。



廃棄物排出量の削減

全社（本社・本社工場 + 東京オフィス他）

全社における「廃棄物排出量の削減」は、2022年度目標を達成しました。

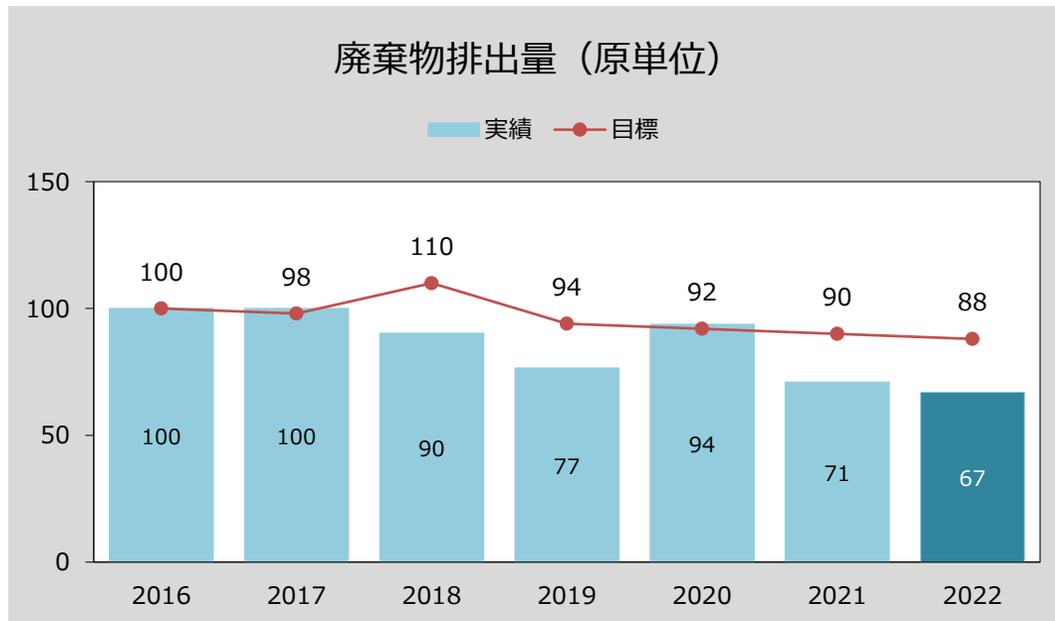
取り組みとしては、

- 社内ホームページに廃棄物情報を掲載
- 分別徹底の推進(現場への表示・ステーション監視強化)
- 電子化・両面コピー・裏紙使用の推進
- 廃棄物データ分析の継続

を継続的に実施しました。



事務エリアの分別ステーション



水道使用量の削減

本社・本社工場

本社・本社工場における「水道使用量の削減」は、2022年度目標を達成しました。

取り組みとしては、

- 日常生活での節水の啓発
- 水道蛇口の水量調整を各所洗面台へ展開
- 水量データの計測・分析を行い、漏水の有無と漏水エリアの割り出し

を実施しました。東京オフィス他においては、節水の啓発のみを実施しました。

グリーン購入率の向上

全社（本社・本社工場 + 東京オフィス他）

全社における「グリーン購入率の向上」は、2022年度目標を達成しました。

取り組みとしては、

- 購入依頼品がグリーン商品であるかチェックし、対象でない場合は可能な限り変更を促す。
- グリーン対象品として購入できないか事務局側でも調査

を実施しました。



7. 製品環境活動

目標設定

PC製品においては、2020年度に2025年度を達成年度とした中期目標である「製品環境負荷低減目標2025」を策定し活動しています。

また、2025年度に至る各年度目標は、2025年度目標をバックキャストして設定しています。

2022年度の結果

活動テーマ	取組項目	2022年度		
		目標	実績	評価
エネルギー使用の合理化	省エネ基準の達成※1※2	100%以上	173%※1※2	○
	オフモード消費電力の削減※1	0.5W以下	0.35W※1	○
資源の有効利用	製品本体への再生プラスチックの使用量向上※1※3	3%以上	4.79%※1	○
	15,16インチモデルの包装材のプラスチック削減※4	15,16インチモデルにおけるプラスチック使用量50%削減	VAIO F16で、バージンプラスチック使用量を76.5%削減	○
	取説プラ袋の継続廃止	取説プラ袋廃止を継続	取説プラ袋廃止を継続 *ただし、特別仕様は除く	○
製品のLCA実施	本社製造にかかる環境負荷を把握	本社製造の電力測定	本社製造の電力測定実施	○
	LCA導入検討	インベントリー決めおよび対象モデルのデータ収集開始	計画を1年前倒しし、3モデルのLCA実施とCFP算出を実施	○

※1 2022年度設計モデルの平均値です。

※2 代表スペックにおける省エネ法2022年度基準における達成率です。

※3 再生材とバイオプラスチックの使用含有率：機器に使用されるプラスチック全重量（プリント基板、電子部品、ケーブル、コネクタ、光学部品を除く）中に含有する再生材とバイオプラスチックの重量比です。プレコンシューマ材料及びポストコンシューマ材料だけを再生材とみなします。

※4 梱包材のプラスチック使用量の基準年度は2020年です。2025年度までに2020年度モデル比30%以上のプラスチック使用量削減を目標とします。

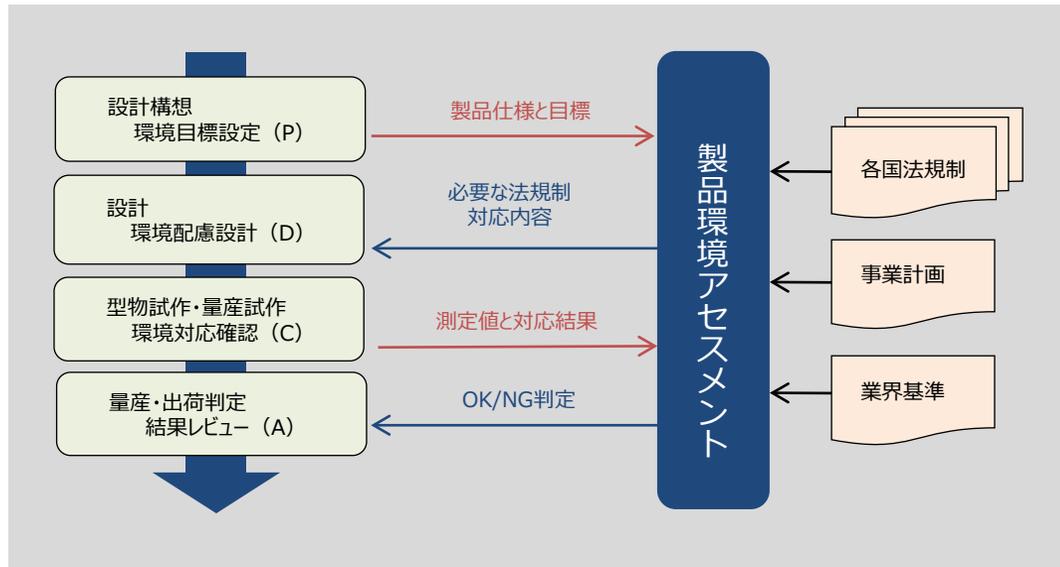
製品環境アセスメント

VAIO株式会社では、製品における環境配慮設計と環境法規制を遵守するため、「製品環境アセスメント」を実施しています。

製品環境アセスメントは、設計部門が行う商品化プロセスにおいて、環境目標設定(Plan)、環境配慮設計(Do)、環境対応・環境法規制遵守確認(Check)、および結果のレビュー(Action)のすべての段階で活用することができるものです。

2022年度も、全モデルの製品環境アセスメントを実施し、環境目標の達成度、自社基準および環境法規制を遵守していることを確認・評価しています。

VAIO株式会社における商品化プロセスと製品環境アセスメントの役割



製品環境アセスメントにおける評価項目

- 環境関連物質の管理
 - 1.1 ハロゲンフリー対応
 - 1.2 PVCフリー対応
 - 1.3 アレルギーへの配慮
 - 1.4 シックハウス症候群への配慮
 - 1.5 電池の環境管理物質管理
 - 1.6 水銀フリー対応
 - 1.7 化審法・CLP
 - 3R推進
 - 2.1 リデュース
 - 2.2 リユース
 - 2.3 リサイクル
 - 省エネルギー
 - 3.1 ACアダプターの国際効率レベル
 - 3.2 搭載している省電力機能
 - 3.3 オフ時消費電力
 - 3.4 年間消費電力
 - 3.5 バッテリーライフ
 - 包装
 - 4.1 包装材料
 - 4.2 印刷用インク
 - 4.3 包装材の廃棄容易性
 - 4.4 包装材重量・サイズ
 - 取説・情報提供
 - 5.1 開示情報と説明内容
 - 5.2 附属書類（紙・インク・重量）
- 各仕向け法規制確認
- ・本体表示
 - ・取説表示
 - ・包装表示
 - ・認証と登録
 - ・環境管理物質

省エネ基準の達成

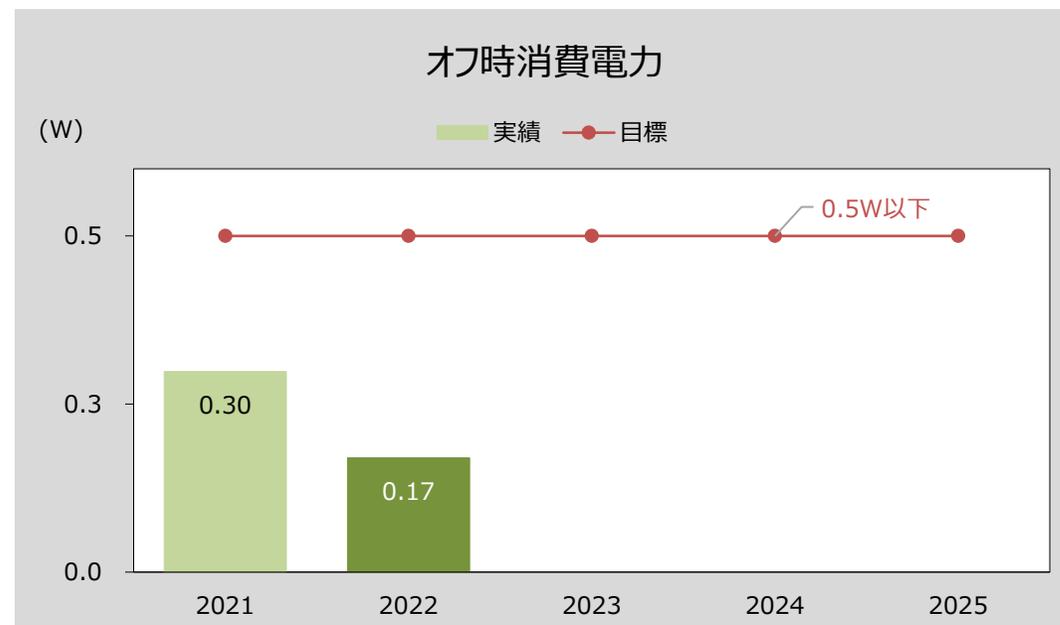
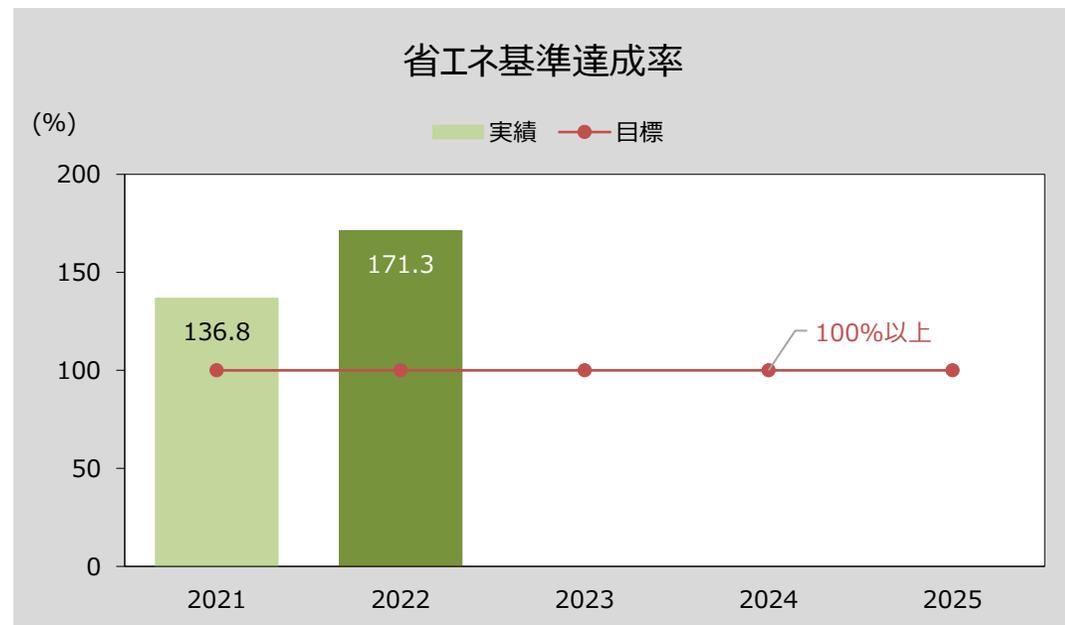
2022年度設計モデルの省エネ基準達成率は、2022年度目標である100%を大きく超える171.3%を達成しました。

- CPU省電力機能の確実な実装により、無駄な電力消費をギリギリまで抑えるパワーマネジメントが可能です。
- 低消費電力LCDの採用など、省電力デバイスを積極的に採用しています。
- モダンスタンバイに対応することで、PC使用時、何も操作をしないと10分以内に自動的にスリープモードへ移行。スリープ中は最大限の省電力化をするとともに、使用時はスリープモードから瞬時に復帰できることで、長時間バッテリー駆動も実現しました。

オフ時消費電力の削減

2022年度設計モデルのオフ時消費電力は、2022年度目標である0.5Wを大きく下回る0.17Wを達成しました。

- 電源オフ時のリーク電流確認。
- 電源オフ時のEC省電力機能の実装。
- モデルによっては、次世代半導体と呼ばれるGaN（窒化ガリウム）パワー半導体を使用した高効率ACアダプターを採用しています。



再生プラスチックの使用量向上

2022年度設計モデルの再生材またはバイオプラスチックの使用含有率は、2022年度目標である3%を大きく上回る4.79%を達成しました。さらに、環境負荷の高い塗装工程を削減、製品外装部の約50%の無塗装化に成功しました。

- 原油から作る新品（バージン材）ではなく、再生材を約10%含有する再生プラスチックを大物部品（ボトムケース等）へ使用し、循環型社会の実現を目指します。
- 塗装工程（塗装～乾燥）による、温室効果ガス削減や、塗料に含まれる有機溶剤（VOC：揮発性有機化合物）による環境負荷低減に貢献できます。



再生材・バイオプラスチック使用含有率



製品の長寿命化

● 高品質なノートPCだから、長く使える

製品の開発過程で各種品質試験を実施し、製品の安全性・堅牢性・耐久性を評価。さらに、専任の技術者による約50項目にもおよぶ品質チェックを実施し出荷する全数国内検査（安曇野FINISH）で徹底した品質管理を行い、初期不要の発生を最低限度に抑えています。

● キートップ摩耗による印字剥がれを防止

長期間使用してもキートップの印字が消えにくい、レーザー刻印を採用※。特別配合したUV硬化塗装によりキートップの防汚性を向上させました。

※VAIO® F14 / VAIO® F16 / VAIO® Pro BK / VAIO® Pro BM

● 内蔵バッテリーの劣化を抑える設計

フル充電状態を維持し続けると劣化し、寿命が短くなる内蔵バッテリーを長く使えるようにする「いたわり充電モード」を搭載しました。

● 再配備を考慮した保守サービス

天板やパームレストなどの、汚れやテカリ、傷、日焼けで劣化した外装を新品にリペアする外装交換サービス、新品バッテリーパックへ交換するバッテリー交換サービスを用意しています。

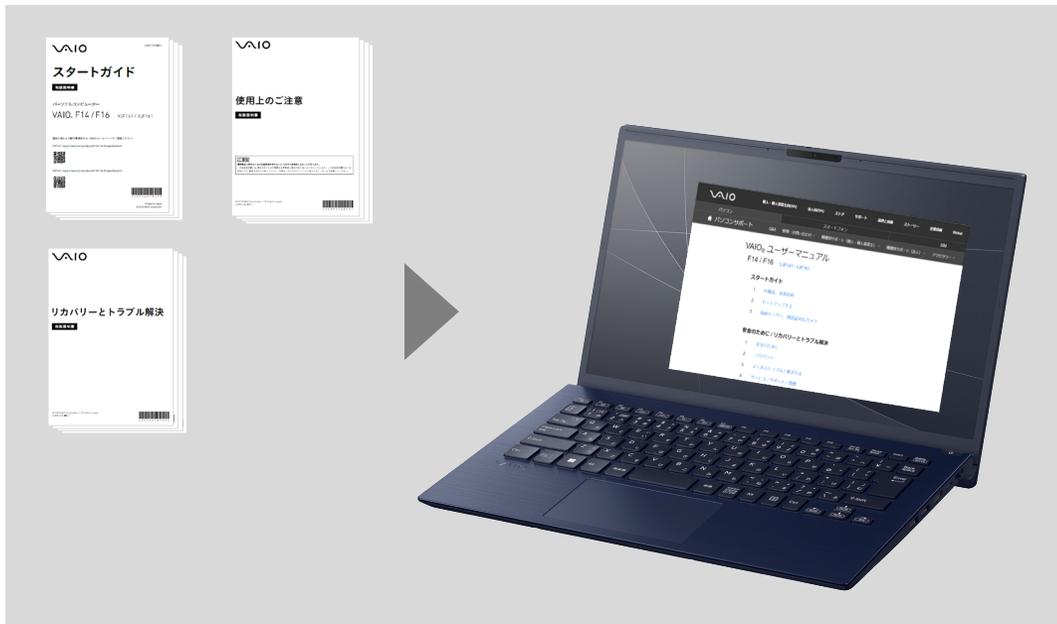


マニュアルの電子化

これまで、マニュアルは紙に印刷した紙マニュアルを製品に付属しておりましたが、2022年度設計モデルではマニュアルの電子化を行いました。

お客様はご購入の際に紙マニュアルか電子マニュアルを選択することもできます。

- 電子マニュアルは、いつでもオンラインで閲覧可能です。また、PCのみでなく、お持ちのスマートフォンからも閲覧できます。
- 紙資源の節約、森林の保護につながります。
- 印刷工程で発生する環境負荷低減に貢献できます。



プラ袋の削減

2022年6月以降発売モデルから、紙マニュアルを選択されたお客様のために、マニュアルを入れる袋を、プラ袋から紙封筒に変更しています。

※特別仕様モデルは除きます。

- プラスチック包装材使用量の削減につながります。
- 海洋プラスチック汚染の軽減に貢献できます。



製品のLCA（ライフサイクルアセスメント）の実施

製品の環境負荷をさらに削減するため、LCA（ライフサイクルアセスメント）を実施しました。

2022年度は、量産中の3モデルにおいて、原材料調達 → 製造 → 輸送 → 使用・維持管理 → 廃棄・リサイクルの各プロセスにおける環境負荷（CO₂ 排出量換算）および、CFP（Carbon Footprint of Product）を、LCAソフトウェアを一部で用いて算定しています。

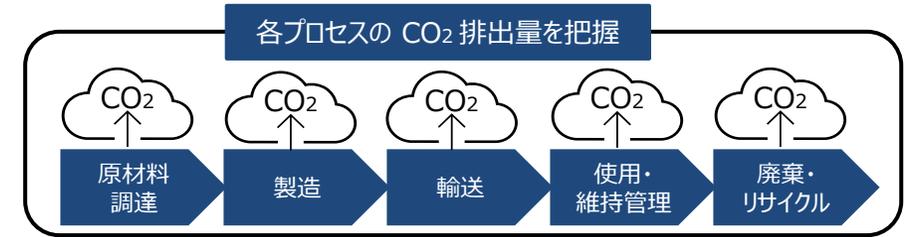
※算定値は自社の算定条件による値です。

使用ツール：LCIデータベース IDEA Ver.3.1

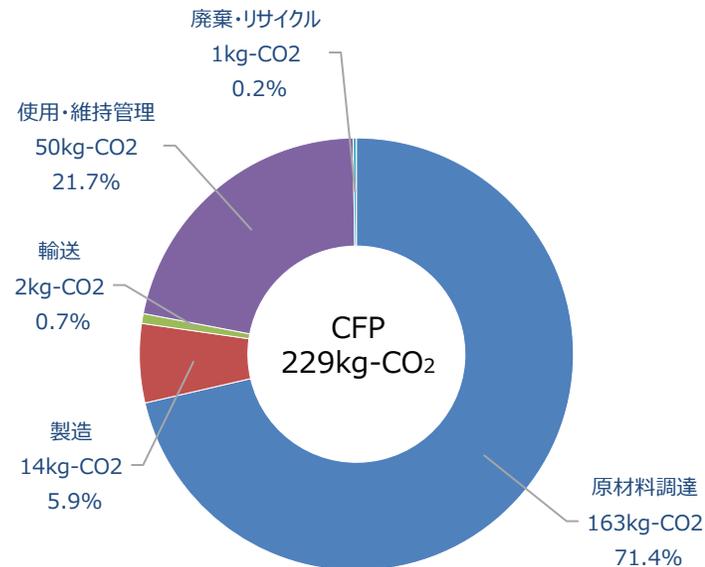
国立研究開発法人 産業技術総合研究所 安全科学研究部門 IDEAラボ

使用時：5年使用を想定、年間消費電力はエネルギースタープログラムにおける測定値を使用

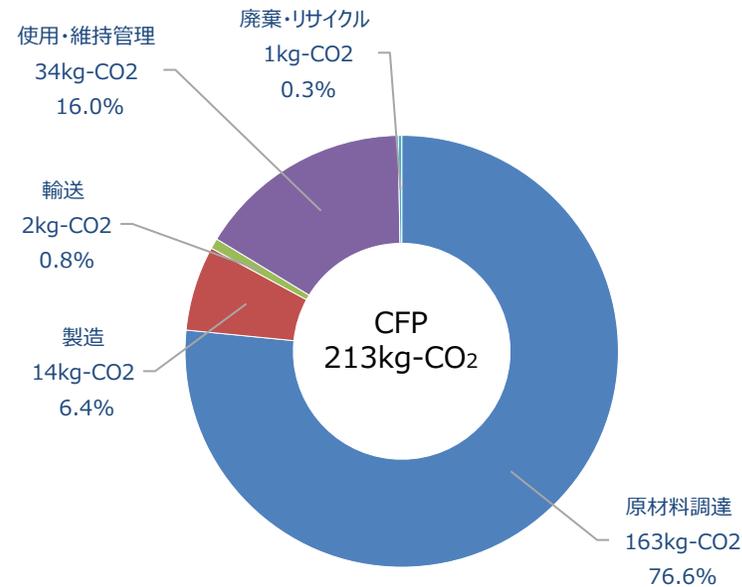
廃棄時：委託先リサイクル会社の2021年実測データを使用



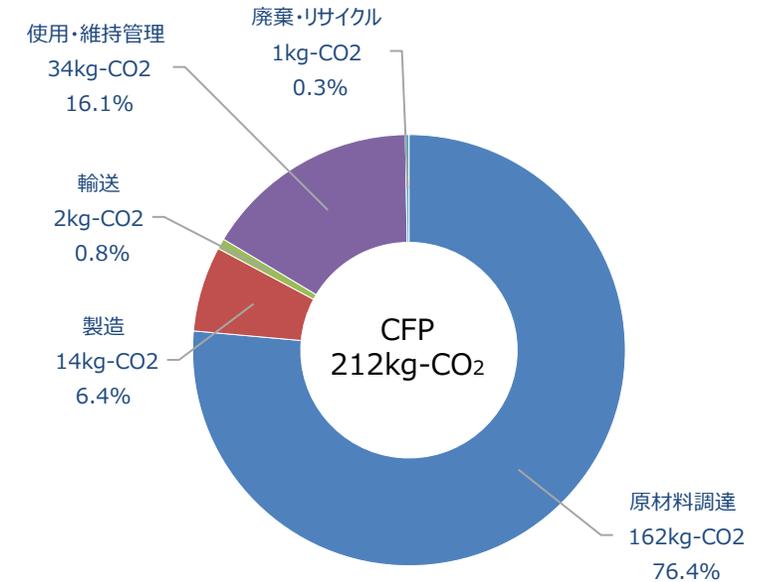
VAIO® SX14 / VAIO® Pro PK



VAIO® SX12 / VAIO® Pro PJ



VAIO® S13 / VAIO® Pro PG



8. 生物多様性保全活動

オオルリシジミの保護活動

絶滅危惧種である草原の蝶「オオルリシジミ」の保護区が安曇野にあり、隣接する地区にも生息域を広げるべく、2021年より、工場敷地にオオルリシジミの幼虫の唯一の餌であるマメ科の多年草「クララ」を植栽し、保護活動に取り組み始めました。

2023年春、クララも大きいものは人の背丈ほどに成長しましたが、残念ながらオオルリシジミの飛来は確認できませんでした。2024年春に期待です。



オオルリシジミ



活動の様子



成長したクララ

オオルリシジミの詳細に関しては、国営アルプスあづみの公園のホームページを参照してください。

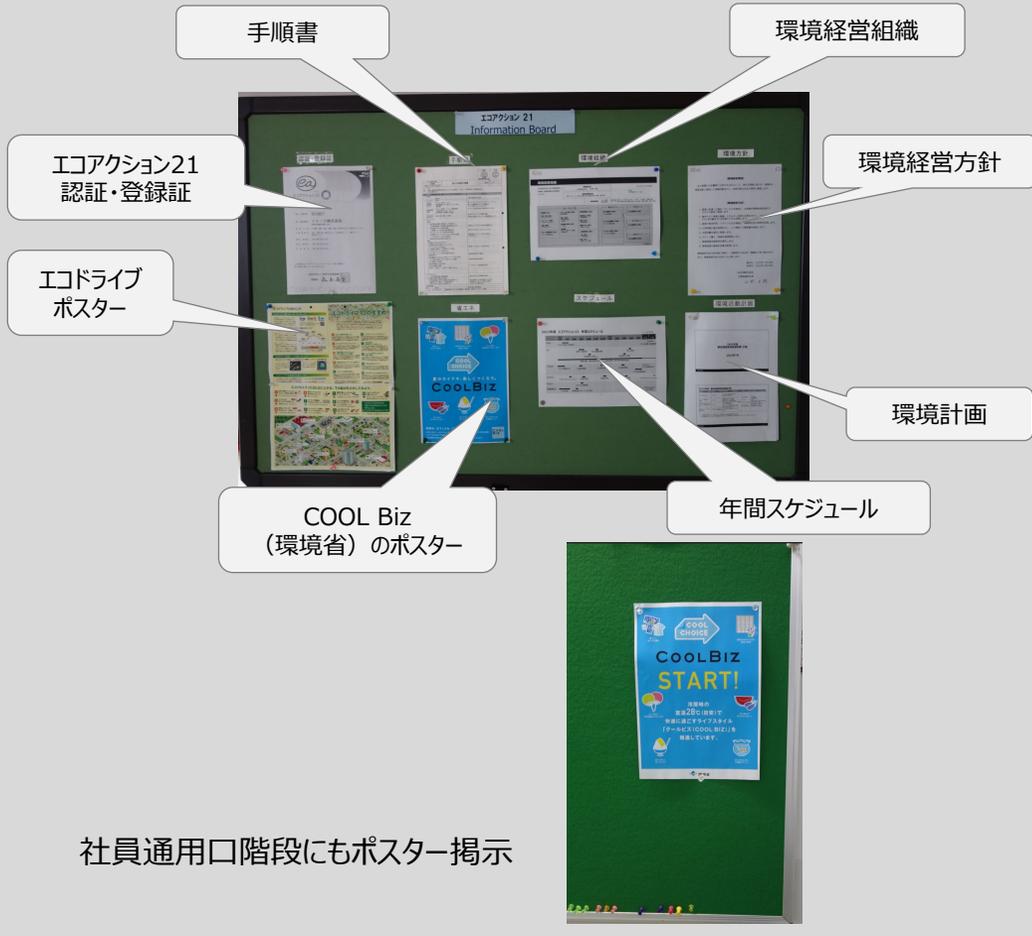
国立アルプスあづみの公園ホームページ ▶ http://www.azumino-koen.jp/horigane_hotaka/new/topics.php?id=2131

本活動にあたり、多大なるご指導をいただいた、長野県生物多様性保全アドバイザー 信州大学名誉教授 農学博士 中村寛志様、岩原の自然と文化を守り育てる会 代表 百瀬新治様、公益財団法人 日本自然保護協会 生物多様性保全部 萩原正朗様には、この場を借りて御礼申し上げます。

9. 環境コミュニケーション

エコアクション21 Information Board

VAIO株式会社では、全従業員が見ることができるように、社員食堂出口に「エコアクション21 Information Board」を設置しています。



社員通用口階段にもポスター掲示

エコアクション21 ポータルサイト

VAIO株式会社では、従業員向けに「エコアクション21 ポータルサイト」を運用しています。

環境経営方針や手順書など、環境経営に必要な文書や記録などにすぐアクセスでき、内部コミュニケーションに大きく役立っています。



ホームページによる環境情報開示

VAIO株式会社における「環境配慮への取り組み」を、ひとりでも多くの方に知っていただくため、弊社ホームページに「環境情報」を掲載しています。

<https://vaio.com/environment/>



10. 環境教育・緊急時対応訓練

環境教育

環境一般教育 (2022年12月)

従業員318人受講



新人研修 (2023年4月)

2023年4月入社の新入社員5人受講



緊急時対応訓練

避難訓練 (2022年6月)

従業員343人参加

本社警備室 自主防災訓練 (2022年10月)

警備室3人参加 ・ 関係者3人参加

緊急連絡網訓練 (2022年11月)

従業員289人参加

高圧ガス(冷凍)保安教育 (2022年11月)

ファシリティ担当者1人参加

危険物倉庫入出庫者登録教育 (2022年11月)

化学物質取扱者9人参加

緊急時対応訓練 (2022年11月)

ファシリティ関係者4人参加

ボイラー実技講習 (2022年11月)

ファシリティ担当者1人参加

緊急連絡網訓練 (2023年3月)

従業員298人参加

11. 社会貢献活動

地域美化清掃活動 に約100人が参加

「安曇野市豊科地区一斉清掃」にVAIOとして参加。

始業前の約30分間、会社周辺道路、公共施設でのゴミ拾いを実施。

活動の様子



2022年11月9日と
2023年5月24日で
約100人が参加



食堂廃油（天ぷら油）を 障害福祉サービス施設 へ提供

社員食堂から出る廃油“天ぷら油”を施設へ提供し、
資源として有効利用しています。

施設では、これらを家畜飼料に加工しています。



使用済 ペットボトル・空き缶 を 障害者就労施設 へ提供

社内から出る飲料用の“ペットボトル”および“空き缶”
を施設へ提供し、資源として有効利用しています。

施設では、これらを分別・減容・圧縮化し
リサイクル工場へ出荷しています。

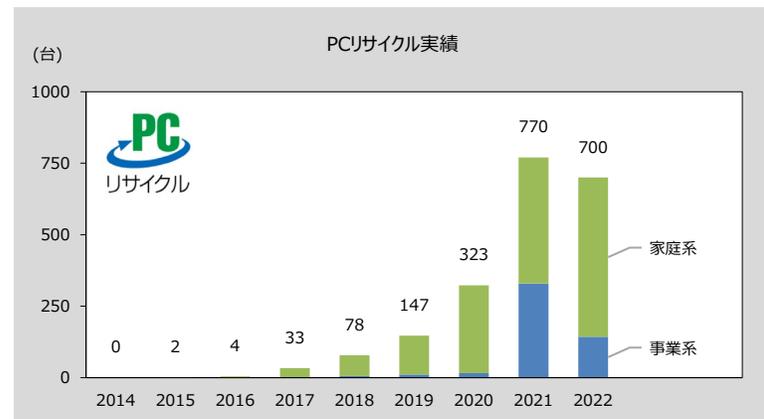


12. 使用済み製品のリサイクル

パソコンリサイクル

VAIO株式会社では、「資源有効利用促進法」に基づき、ご不要となった弊社製パソコンの回収・再資源化を行っています。

弊社製パソコンは「PCリサイクルマーク」を表示しておりますので、お客さまに新たな料金をご負担いただくことなく、弊社が回収・再資源化いたします。



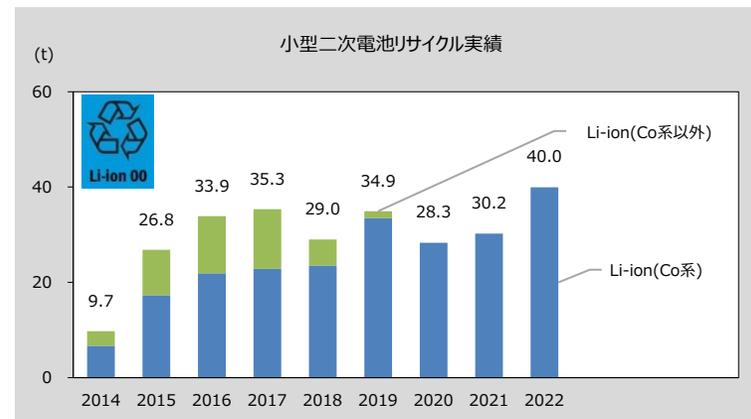
家庭系/事業系	回収・再資源化台数
事業系	143 台
家庭系	557 台
合計	700 台

VAIO株式会社は、一般社団法人 パソコン3R推進協会 の会員です。

バッテリーリサイクル

製品に用いられている充電式電池（バッテリー）には、リサイクル可能な希少金属材料が使用されています。

VAIO株式会社では、「資源有効利用促進法」に基づき、製品に搭載している充電式電池（バッテリー）の回収・リサイクルの推進に努めています。



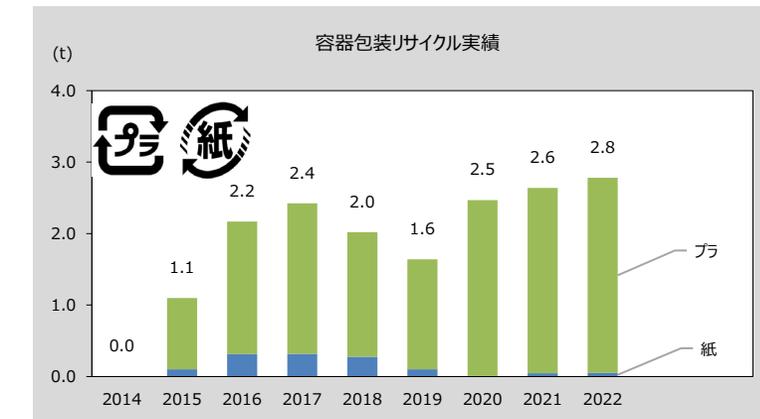
電池種別	リサイクル委託重量
Li-ion (Co系)	40.0 t
Li-ion (Co系以外)	0.0 t
合計	40.0 t

VAIO株式会社は、一般社団法人 JBRC の会員です。

容器包装リサイクル

VAIO株式会社では、「容器包装リサイクル法」に基づき、容器包装の再商品化の推進に努めています。

弊社製品に用いられている容器包装には、「資源有効利用促進法」に基づき、識別マークを表示しています。



素材	再商品化委託重量
紙製容器包装	0.1 t
プラスチック製容器包装	2.7 t
合計	2.8 t

VAIO株式会社は、公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会 の会員です。

13. 環境関連法規制の遵守評価

製品およびサイトに関する環境関連の法令、規則、条例等の遵守評価の結果、すべて遵守していることを確認しました。

また、会社設立以来、違反、訴訟および勧告等の発生はありません。

※遵守評価結果 ○：遵守

法規制	遵守評価結果
大気汚染防止法	○
安曇野市公害防止条例	○
騒音規制法	○
長野県公害防止条例（告示）	○
水質汚濁防止法	○
高圧ガス保安法	○
消防法	○
オゾン層保護法	○
廃掃法（産業廃棄物）	○
廃掃法（特別管理産業廃棄物）	○

法規制	遵守評価結果
廃掃法（一般廃棄物）	○
工場立地法	○
長野県景観形成条例	○
安曇野市景観形成条例	○
家電リサイクル法	○
資源有効利用促進法	○
建設資材リサイクル法	○
下水道法	○
フロン排出抑制法	○
小形家電リサイクル法	○

法規制	遵守評価結果
容器包装リサイクル法	○
省エネ法	○
化審法	○
化管法	○
グリーン購入法	○
水銀環境汚染防止法	○
安曇野市地下水の保全・涵養及び適正利用に関する条例	○
プラスチック資源循環促進法	○

14. 環境マネジメントレビュー

環境責任者（代表取締役社長）へのインプット内容	環境責任者（代表取締役社長）コメント
<ul style="list-style-type: none"> ●環境経営方針 2022年度は改定なし。 	問題なし。
<ul style="list-style-type: none"> ●環境活動組織 全組織を対象としている。2022年度最終は8部門体制。 	2022年度組織としては問題なし。
<ul style="list-style-type: none"> ●環境経営目標・計画の達成状況 <ul style="list-style-type: none"> ◆製品環境負荷低減活動 <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度の結果 <ul style="list-style-type: none"> ① 省エネ基準の達成：○ ② オフモード消費電力の削減：○ ③ 製品本体の再生材・バイオプラスチック使用含有率の向上：○ ④ 梱包材のプラスチック使用量の削減：○ ・取り組み 大型部品への再生材使用と塗装の削減。バッテリー節約設計。取扱説明書プラ袋の削減。マニュアルの電子化と同梱物削減。 	先日USで、「ACアダプターがプラ袋に入っているが、何とかしてほしい」と指摘を受けた。A社などは入れていない。プラ袋は環境配慮の面もあるのと、安っぽく見えるので、VAIOを買ったという特別な体験を届けたいのどうなのかと。他はよいのに残念だと言われた。（⇒事務局回答：検討したことはあるがまだ出来ていない。無くす検討はしていますが、梱包設計の変更を伴うので、出来るかどうかはまだわからない状況）
<ul style="list-style-type: none"> ◆サイト環境負荷低減活動 <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度の結果 <ul style="list-style-type: none"> ① CO2排出量の削減：○ ② 廃棄物排出量の削減：○ ③ リサイクル率の向上：○ ④ 水道使用量の削減：○ ⑤ グリーン購入率の向上：○ ・取り組み 温度管理の徹底。外気の取り込みによる省エネ推進。東京オフィスの電力の再エネ化(7月～)。段階的なLED化の実施。 	問題なし。
<ul style="list-style-type: none"> ◆SDGs および働き方改革への取組状況 <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsへの取り組み 2022年度は、SDGsの17のゴールに対して、13ゴールに貢献。 	問題なし。
<ul style="list-style-type: none"> ●環境マネジメントシステムの運用・改善状況 <ul style="list-style-type: none"> ・文書の制定・改訂状況：製品環境：全25文書運用中（6改訂・2廃止）サイト環境：全15文書運用中（3改訂・1廃止） ・製品環境アセスメント：2022年度全モデルの製品環境アセスメントを完了。 ・EM-S303 環境管理物質管理基準：Ver.8.0準備中 ・環境関連法規制新規/改正等の対応：問題なし ・使用済み製品のリサイクル実績：PC:家庭系が増加傾向 ・エコアクション21中間審査：ガイドラインに適合。環境経営レポートが「エコアクション21 オブザイヤー2022」優良賞を受賞。 ・環境教育・訓練：9項目の教育・訓練を実施 ・環境事務局が受講したセミナー/ウェビナー 13件。 	環境関連法規制は、どのようにモニタリングしているのか？ (⇒事務局回答：シンクタンクから環境情報を購入するなどしている。中身の確認については環境担当者が行っている)
<ul style="list-style-type: none"> ●遵守評価の結果 <ul style="list-style-type: none"> ・製品環境：全て遵守していることを確認 ・サイト環境：全て遵守していることを確認 	問題なし。

環境責任者（代表取締役社長）へのインプット内容	環境責任者（代表取締役社長）コメント
<ul style="list-style-type: none"> ●問題点の是正・予防状況 <ul style="list-style-type: none"> ・製品環境：0件 ・サイト環境：0件 	素晴らしい。
<ul style="list-style-type: none"> ●環境内部監査の結果 <ul style="list-style-type: none"> EA21ガイドライン2017に適合を確認 	問題なし。
<ul style="list-style-type: none"> ●利害関係者（顧客や地域住民、行政など）からの要望事項 <ul style="list-style-type: none"> 要望：・法人顧客N様より、気候変動の取組に関して要請あり。SBT認定=Target publication、CDP回答=スコアCを獲得。 ・法人顧客H様より、カーボンオフセットサービス提供の要請あり。対象モデルのLCA完了。カーボンクレジット購入の契約完了 外部コミュニケーション：問い合わせなどにも適切に対応 	CDPのスコア=Cは中間よりやや上くらいということか？ (⇒事務局回答：ほぼ中間と認識している。会社の規模感としては健闘していると考えている)
<ul style="list-style-type: none"> ●社会貢献活動の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・地域美化清掃活動に2回で合わせて社員約100人が参加 ・生物多様性保全活動として、オオルリシジミの保護につながるクララの生育を実施。 	オオルリシジミは増えているのか？ (⇒事務局回答：確認する)
<ul style="list-style-type: none"> ●2023年度 製品環境負荷低減目標 <ul style="list-style-type: none"> ・省エネ基準の達成・オフモード消費電力の削減・製品本体の再生材とバイオプラスチックの使用含有率の向上 ・梱包材のプラスチック使用量の削減 ・製品のLCA実施 	問題なし。
<ul style="list-style-type: none"> ●2023年度 サイト環境負荷低減目標 <ul style="list-style-type: none"> ・「2018年度比50%削減」という目標値に向け、環境負荷を低減したオフィス環境の整備に努める。 7月から本社の全電力を再生可能エネルギー化し更に推進。 	2030年に向けたCO ₂ 削減計画のグラフは一番わかりやすい。2018年度比で半減させると宣言しているのだから、ポータルに載せるなどして社内にもアピールした方が良い。 (⇒事務局回答：掲載する)
<ul style="list-style-type: none"> ●2023年度 サイト環境 投資・修繕計画 <ul style="list-style-type: none"> ・3G1F北 4G4-5 4-4エリア エアコン化工事、1G西側自動ドア設置、3G内壁設置、LED化(スカイホール・EMCサイト・2G) 	ISOの進捗は？ (⇒事務局回答：今のところ予定通り)



環境責任者（代表取締役社長）による全体評価	見直し指示
<ul style="list-style-type: none"> ●環境経営方針 <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>変更必要 <input checked="" type="checkbox"/>変更不要 <input type="checkbox"/>検討必要 	問題なし。
<ul style="list-style-type: none"> ●環境経営目標・計画 <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>変更必要 <input checked="" type="checkbox"/>変更不要 <input type="checkbox"/>検討必要 	問題なし。
<ul style="list-style-type: none"> ●実施体制 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/>変更必要 <input type="checkbox"/>変更不要 	グローバル戦略部門の担当者名は今後変える必要あり。
<ul style="list-style-type: none"> ●総評 <ul style="list-style-type: none"> 大きな問題は無く、計画通り進められ、目標達成していることは素晴らしい。サイト環境負荷低減の進捗状況は社内に積極的にアピールして欲しい。CO₂排出量削減目標の達成に向け、次年度FY23からはグリーン電力の導入を決定したのでこの効果が大きい。オオルリシジミの保護活動に関しては、現状把握をして欲しい。 	



「VAIO環境経営レポート2022」を最後までお読みいただきありがとうございます。

水と緑豊かな安曇野に立地するVAIOとして、
身近な環境に限らず、国際的な環境活動と調和した事業活動を行い、
持続可能な社会の実現に貢献します。

